

産直屋台いなGOの取組

いなGOの特徴

- 田舎のアンテナショップ
- 原料産地の6次産業化(付加価値創造)
- 中山間地域の総合産地戦略
- 中心市街地の空き店舗対策
- 大学発ベンチャー
- 学生参画

今回の取り組みとは…。

- 事の発端(動機)
中心市街地(福島市)の空洞化の改善
と
農村(伊南地域)の地域活性化
を結びつけて(連携して)行う。
- これまでの伊南地域単独で行う活性化策とは違った活路を見出せるのではないか!

「地域で生産された農産物を6次産業など、より付加価値を高くした流通」

- 福島県南会津町伊南のアンテナショップとして、伊南地域の素材・情報を発信
- 地域間の交流効果が期待
- 大学生が屋台村へ出店・運営するという性質を利用し、「恒常的な中心市街地への集客を取り戻すこと」
- 「いなGO」の出店により、ふくしま屋台村に新たな客層を呼び込み、それを新たな固定客
- 福島市中心市街地・福島県北地域と広く波及していくことを目標に運営

来客数と売上げの推移

- お盆の時期は来客数が減少

ネットワーク型地域づくりの効果 産直屋台「いなGO」の波及効果

- 福島中心市街地
 - ①新規顧客の開拓へ
 - ②農村との交流活動へ(GT、食育)
- 伊南地区
 - ①マネジメント組織(まちづくりNPO)と担い手法人(農業生産法人伊南の郷)へ
 - ②郷土料理研究会設立へ
 - ③産直活動の組織化へ



